

令和五年度

小論文

(60分)

教育学部 児童幼児教育学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、一枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

教育学部 児童幼児教育学科

次の文章と図1の調査結果を参考にしながら、以下の問いに答えなさい。

漱石やマンが「あやうい心」を発見してから百年。いまわれわれの心はかなり追いつめられたところまで来ているのではないだろうか。

それにしても……。私たちはいったいなぜそれほど生きづらくなったのでしょうか。お金がないからでしょうか。先行きの保証がないからでしょうか。夢が持てないからでしょうか。仕事がないからでしょうか。それとも、生き甲斐を見つけれないからでしょうか。

そのいずれも少しずつ当たっているのですが、私はより本質的な理由として次の三つについて考えてみたいと思います。

まず一つ目は、グローバル化が進み、多様化が進むどころか、むしろ人びとの価値観が画一化し、「代替案」というものを考えられなくなったことです。

どんなものごとでも答えは一つではありません。常識的によいといわれていることのほかに、自分にとって最適の何かがあるはずです。しかし、多くの人がそれを見つけれなくなっているのです。

たとえば、進学、就職、収入、社会活動、人間関係、恋愛、あるいは趣味や暮らし方……。どのような生き方が賢くて、どのような働き方が尊敬されて、どのような生活スタイルがカッコいいのか。そうしたことについての価値観が異様なくらい画一的になっていて、それ以外のものを思いめぐらす想像力がないのです。一つの価値観しか持っていないと、それが崩れたときに逃げ場がないという恐ろしさがあります。

いじめやひきこもりなどの問題も、これと無関係ではありません。先だってこんなことがありました。ある若者から、いじめにあつて学校に行けなくなり、家庭内でもうまくいかず、悩んでいるという話を聞いたのです。そこで私は、それなら家出でもして知らない土地に行つてやり直したらどうかと言いました。すると、家出？ そんなことは思いもよらない、そういうことではなく、いまこの現状をよくするためにどうしたらいいかを知りたいのだという、まったくすれ違いの反応が返ってきました。

私としては、その生き方がどうしても苦しいならリセットしたらいいと思うのです。いまの学校がだめなら別の学校に入る。いまの土地がだめならよそへ行く。家族との関係がだめなら一人暮らしをする。コンビニなどでバイトでもすれば若者一人くらいなんとか生きていけるでしょう。我慢したあげくに死を選んでしまうより、まったくいいはずですよ。

それにもかかわらず、いま自分が手にしている価値観を捨てられない人が多いのです。それを捨て去つても人生は続く、いくらでも別の人生はあるというふうに考えられなくなっているのかもしれないかもしれません。

私が青春時代を送ったころには、そうではなかった気がします。一九七〇年代、多くの若者はこの日本に理想や希望があるなどとは思っておらず、こんな社会なんかくそくらえだと息まき、むしろ中国やパレスチナにパライスがあると思っていたりしました——実際にはその多くはまったくの幻想であつたわけですが。とにかく、目の前の社会に自分を合わせようとは思わず、ナップザック一つかついでいっそそっちへ行つてしまおうと本気で言つたりしていました。それがよかつたのか悪かつたのかは別として、少なくともボヘミアンになることをあまり恐れませんでした。

しかしいまは、自分が生きている世の中が生きづらいと思つたとき、多くの人がそれについていけない自分のほうを否定しがちです。世の中がおかしいと思つても、自分のほうを曲げてそこで成功しようとするのです。いったいいつの間に私たちはこんなにもわかりがよくなったのでしょうか。

いや、いまだって田舎へ移ってスローライフを始めたりする個性派はいるという反論があるかもしれませんが。しかし、それらをじっくり眺めれば、多くの場合、やはり現代的な価値観によって担保されたスローライフで、真正の自給自足やサヴァイヴァルではないことに気づくでしょう。「そうは言っても、金がないや話にならない」とか「老後はちゃんと困らないようにしてある」とか、何かあてにできるものを確保した上でのものなのではないでしょうか。

オルタナティブ
代替案を考えられない心は幅のない心であり、体力のない心だと思えます。言い換えれば、心の豊かさとは、究極のところ複数の選択肢を考えられる柔軟性があるということなのです。現実はいま目の前にあるものだけではないとして、もう一つの現実を思い浮かべることのできる想像力のことなのです。

（姜尚中 『心の力』 集英社新書（二〇一四） 六八―七一頁）

注1・マン Thomas Mann（トーマス・マン） ドイツ出身の小説家でノーベル文学賞受賞。『ヴェニスに死す』『トーニオ・クレーガー』『魔の山』などの著者。ヒューマニズムの立場から民主主義擁護の姿勢を貫く。

『広辞苑』第七版より一部抜粋

注2・本問題文では、二つ目以降の理由について省略している。

注3・ボヘミアン 「ボヘミアの住民」の意。俗世間の掟に従わず気ままな生活をする人。

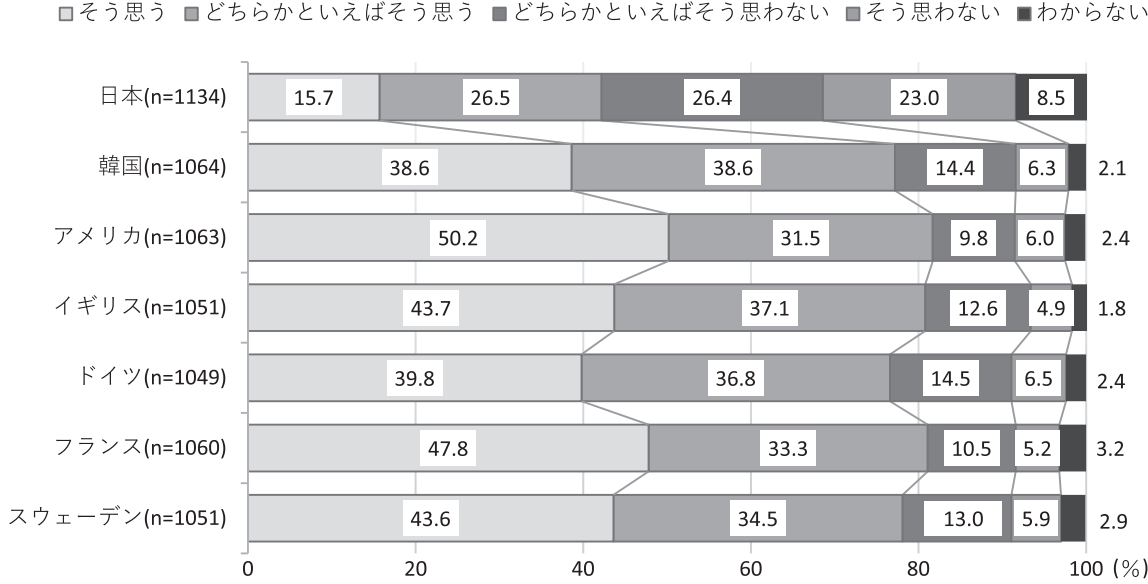


図1：「他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ」

日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～（3）社会規範（2018年）
出典：内閣府『令和元年版 子供・若者白書』2019年7月

注：内閣府では、我が国と諸外国の若者の意識を比較することにより、我が国の若者の意識の特徴及び問題等を把握し、子供・若者の育成支援に関する施策の参考とするため、平成30（2018）年度に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（平成30年11月及び12月に日本を含めた7か国の満13歳から満29歳までの男女を対象に実施したインターネット調査）を実施した。

問1 図1より、国際比較から日本の若者意識の現状について明らかに言えることを二〇〇字以内で答えなさい。

問2 本文の趣旨と図1の調査結果を踏まえて、現代社会をたくましく生きるために必要な力について、あなたの考えを四〇〇字以内で述べなさい。